

講義科目名称	英語コミュニケーション研究 I	副題	Introduction to Meaning in Language
英文科目名称	English Communication Studies I		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
細井 洋伸			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等 授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他 アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容 (概要)	英語の意味に関する文法事項について「形式意味論」、「認知意味論」の基本的概念を参照しながら考えていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、 双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく 。さらに、受講者のこれまでの自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、学習者としてどのようなトピックが理解・習得が難しいかを受講者相互で議論を行い、その後教員を含めて議論を行っていく。(上記「授業種類」に記載されているように、この授業は「実務家教員」による授業である。)
授業の目的	このコースは、英語でのコミュニケーションに関する研究の基礎となる意味に関して、その基礎について、議論を通して深く理解する。さらに、自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、英語学習者にとって英語の意味に関する文法事項のどのような点が理解が難しいのか、それはどうしてかを議論して、その文法事項についての理解を深める。具体的には、「形式意味論」、「認知意味論」の基本的概念の観点から意味について考えていく。あわせて、これまでの理論的な考え方について考察し、課題を見つけ出す力を養う。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に関与している。
到達目標	「形式意味論」、「認知意味論」の基本的概念を習得することにより、コミュニケーションで使われる英語の表現についての理解を深めることができ、より正確に、しかも適切に英語の表現を使うことができるようになる。また、受講者相互の議論や教員も含めた議論を通して、これまでの理論的な考え方について考察をし、課題を見つけ出す力をつける。
授業計画	第1回 イントロダクション コースの概要を説明し、このコースで扱うトピックに関係することで、これまでの自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、学習者としてどのようなトピックが理解・習得が難しいかを受講者相互で、また教員も含めて議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回 Ch1 Studying meaning 私達が「意味」と言う時に、どのようなことを言っているのかについて、また、そもそも「意味」とは何なのかについて、受講者相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回 Ch2 Adjective meanings 形容詞 (Adjective) と一言でいっても、そこには意味的に様々なタイプの形容詞がある。授業では、異なるタイプの「形容詞」の意味の違い、特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。あわせて、英語と日本語の各グループの特徴が異なることにより、英語学習者にどのような影響が出てくるかも議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回 Ch 3 Noun Vocabulary (Categorization, Hyponymy) 「名詞」(Noun) の意味について、認知言語学でいう「カテゴリー化」(Categorization) の概念から考えていく。「名詞」の意味のカテゴリー化は私達が思っている以上に難しい。どのような点が難しいか、さらに認知言語学のカテゴリー化が私達の英語学習とどのように関係するかを、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回 Ch 3 Nonn Vocabulary (Countable Nouns vs. Uncountable Nouns) 「名詞」(Noun) の中でも特に「可算」(Countable)、「不可算」(Uncountable) 名詞に焦点を当てて議論していく。英語の「不可算名詞」にも様々な種類の不可算名詞がある。授業では受講者相互で、英語にはどのような不可算名詞があり、不可算名詞全体に共通する特徴はあるのかを議論し、その後教員を含めて議論をする。また、英語学習者にはどのようなタイプの不可算名詞が特に習得が難しいのかを議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回 Ch 4 Verbs and situations: Vender and Kindaichi 「動詞」(Verb) の意味を、他動性やアスペクトの観点から分析していく。「動詞のアスペクト」については、英語の動詞に「~ing」をつけた時に、また日本語の動詞には「~ている」をつけた時に、どのようにグループに分かれ、それぞれのグループにどのような特徴があるのかを、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。あわせて、英語と日本語の各グループの特徴が異なることにより、英語学習者にどのような影響が出てくるかも議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回 Ch 4 Verbs and situations: Vender and Kindaichi 第6回の授業で行った、特に英語の動詞の分類についてさらに深く掘り下げていく。受講者相互で動詞を区別する特徴は何かについて議論していく、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回 Ch 5 Figurative Language この授業では、特に「Figurative Language」(比喩表現) の中でも特に「Metgaphor」(メタファー)、「Metonymy」(メトニミー) に焦点を当て議論していく。「Metaphor」、「Metonymy」の特徴を受講者相互の議論、また教員を含めた議論を通して理解していく。その後、事前に新聞、小説などから探してきている「Metgaphor」、「Metonymy」と思われる表現についてテキストの内容に照らし合わせ、それらが「Metgaphor」、「Metonymy」にあたるかどうか、またテキストに書かれている特徴を持っているかどうかを議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	目と Ch 6 Tense and Aspect 英語の「Tense」(時制)と「Aspect」(アスペクト)の特徴を確認した後、教員からの課題をもとに、日本語の「Tense」と「Aspect」が英語とどのように異なるのか、またそれが英語学習者にどのような影響を及ぼすのかを、受講者相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回 Ch 7 Modality, scope and Quantification この授業では、特に「Modality」(モダリティ)に焦点を当てる。「Modality」にはどのような種類があるのか、その意味についてどのような分析方法があるのか、実際の例にそのような分析がどのように、どこまで応用できるのか学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回 Ch 8 Pragmatics: Presupposition 話し手は発話をする際、発話以前に事実だと想定していることがあり、そのような情報に基づいて私達のコミュニケーションは成り立っている。そのような presupposition (前提) の種類、特徴について、また、実際の会話でそのような特徴がどこまで当てはまっているのか、どんな問題が生じるのかについて、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回 Ch 8 Pragmatics: Grice's Cooperative Principle and the Conversational Maxims 私達がコミュニケーションを行う時に暗黙のうちに従っているとされている Grice's Cooperative Principle (協調の原則) と the Conversational Maxims (会話の格率) の種類、特徴を確認について、また、実際の私達のコミュニケーションの中でどのように Conversational Implicature (会話的含意) が使われているか、英語と日本の間に何か違いはあるのかを、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回 Ch 8 Pragmatics: Conversational Implicature 私達の会話は、文字通りの意味以外に、表面には出てこない含意を持ちうる。そのような Conversational Implicature (会話的含意) の特徴、様々な種類について、また実際の私達のコミュニケーションの中で、どのように Conversational Implicature が使用されているのか、英語と日本の間に何か違いはあるのかについて、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)

	<p>第14回 Ch 8 Pragmatics: Speech Act</p> <p>言葉は、情報伝えるだけでなく、行為を行うこともできる。そのような Speech Act (発話行為) とはどのような特徴があるのか、また英語のコミュニケーションにおけるSpeech Act と日本語のコミュニケーションにおけるSpeech Actの間にどのような違いがあるのかについて、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第15回 レポートの発表</p> <p>授業でやったことやったことで、特に関心があることについてレポートにまとめてもらい、それを発表してもらおう。また、その内容について、受講者同志や教員を含めて授業で議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p>
テキスト	<i>An Introduction to English Semantics and Pragmatics</i> . (Patrick Griffiths) Edinburgh University Press.
テキスト購入方法	授業中に指示する。
参考文献	授業中に指示する。
成績評価の方法	プレゼンテーション50%、学期末レポート50%
教員への連絡方法	授業の前後の時間を利用する。
履修上の注意	英語で授業を行う。
授業外学修情報 (予習復習)	<p>事前学習：テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。</p> <p>事後学習：授業で学んだことを復習し、理解を深める。</p> <p>1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）</p>
学生へのメッセージ	毎時間、テキストで事前に指示されたところを読み込んでおく。

講義科目名称	英語コミュニケーション研究 II	副題	Communicative/Pedagogical Grammar of English
英文科目名称	English Communication Studies II		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
深谷 晃彦			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他 アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容 (概要)	英文法の諸問題について、双方向あるいは多方向に行われる討論を通して、基本的な形式や意味、文脈における意味や用法などの観点から理解を深め、その知識をどのように指導に生かすかを検討する。予習内容に基づき受講生がプレゼンテーションを行ったり、それを基に教員と受講生でディスカッションを行ったりすることにより、内容をより深く理解していく。さらに、受講者のこれまでの英語学習経験や英語教授経験も振り返りつつ、学習者がつまづきがちな英文法のポイントとそれをどのように指導するのがよいかなどについても、教員・受講生で議論を行いながら、より実践的な知識を身につける。(この授業は「実務家教員」による、実践的な方法による授業である。)
授業の目的	この授業は、「英語コミュニケーションの土台となる文法において、学習者にとって特に問題となる項目の深い知識を得るとともに、その知識を指導に活用する力を身につけることを目的とする。また、英語での受講生によるプレゼンテーションや教員・受講生によるディスカッションを通して、知識の深化および実践における問題点の発見とその解決策の検討を進めていくことにより、英語による発表力や論理的思考、問題発見・解決能力を身につけることも目的とする。この授業は、国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に寄与する。
到達目標	・英語コミュニケーションの土台となる英文法について、基本的な形式や意味、文脈における意味や用法に関するより深い知識と、指導への応用力を身につけている。 ・英語でのプレゼンテーションやディスカッションを通してこれらを達成することにより、英語での発表力や論理的思考、問題発見・解決能力を身につけている。
授業計画	第1回 Introduction 授業の概要を説明し、この授業で扱う内容に関係することで、これまでの自分の英語学習経験や英語教授経験も振り返りながら、学習者としてどのような問題の理解・習得が難しいかを受講生相互で、また教員も含めて議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回 Chapter 2: Articles Part 1 冠詞の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回 Chapter 2: Articles Part 2 冠詞の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回 Chapter 3: Tense and Aspect Part 1 時制と相の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回 Chapter 3: Tense and Aspect Part 2 時制と相の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回 Chapter 4: Modals Part 1 法助動詞の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回 Chapter 4: Modals Part 2 法助動詞の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回 Chapter 5: Conditionals Part 1 条件文の基本的な形式や意味について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回 Chapter 5: Conditionals Part 2 条件文の文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回 Chapter 6: Prepositions and Particles 前置詞と不変化詞の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回 Chapter 7: Indirect Objects 間接目的語の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回 Chapter 8: Infinitives and Gerunds 不定詞と動名詞の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回 Chapter 9: Relative Clauses 関係詞節の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回 Chapter 10: Direct and Indirect Speech 直接話法・間接話法の基本的な形式や意味、文脈における意味や用法について受講生がプレゼンテーションを行い、それを基に教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。また、学習者がつまづきやすい問題点とその指導法についても議論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回 Presentations 授業で扱った内容やそれに関連する内容で特に関心があるトピックについて、受講生がプレゼンテーションを行い、その内容について教員・受講生でディスカッションする。プレゼンテーションとそれに関するディスカッションの内容を基にレポートにまとめ、学期末課題として提出する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
テキスト	Yule, George. 1998. <i>Explaining English Grammar</i> . Oxford University Press. (ISBN: 9780194371728)
テキスト購入方法	各自で購入する。
参考文献	授業中に指示する。

成績評価の方法	プレゼンテーション・ディスカッション：50%、学期末レポート：50%
教員への連絡方法	初回の授業で提示するメールアドレスによる。
履修上の注意	授業は英語で行う。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの指定範囲を読み、要点や疑問点を整理しておく。担当者はプレゼンテーションの準備をする。 事後学習：テキストの指定範囲やプレゼンテーション・ディスカッションの内容を復習する。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	プレゼンテーションの担当者以外もテキストの指定範囲を読んできていることが前提となるので、必ず予習をしてください。

講義科目名称	英語コミュニケーション研究 III	副題	Pragmatics for English Education and Communication
英文科目名称	English Communication Studies III		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員	吉村 敬子		

英語コミュニケーション	講義・演習
添付ファイル	

授業種類	<p>実務経験のある教員等による授業科目</p> <p><input type="checkbox"/>実務経験のある教員による授業科目</p> <p><input type="checkbox"/>実務家を招へいして実施する授業科目</p> <p>実務経験・授業での活用、招へいする実務家等</p> <p>授業で使用する言語</p> <p><input type="checkbox"/>日本語</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>英語</p> <p><input type="checkbox"/>その他</p> <p>アクティブラーニング</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>アクティブラーニング要素を取り入れている</p>
授業の内容 (概要)	このコースのサブタイトル、Pragmatics for English Education and Communication (英語教育と英語コミュニケーションの語用論) にあるように、このコースでは、円滑なコミュニケーションには欠かせない場面や状況に合った適切な言語使用、またその教育・学習について、「語用論」(pragmatics)の概念や理論を学び、どのようにそれらを英語教育やコミュニケーションに活かしていけるのかについて学びます。基本的に授業は英語で実施し、課題の読み書きも全て英語で行う。授業形式としては、事前に予習してきた語用論の概念などを授業内で確認し、それらをどのように教育や学習に応用・活用できるのかを中心に教員も含め多方向に討論する時間を多く設ける。それにより、語用論の概念をより深く理解し、実際の教育や学習への活用法について、またそれらにおいての課題を発見したり、どのように解決できるかなどのアイデアを共有し、実践的な活用に向けて考える。(双方向または多方向に行われる討論を伴うこのコースの目標は、語用論の基礎概念を学び、具体例を使いながら理解を深め、その上で、それらがどのように英語コミュニケーションや英語教育・英語学習に活用できるのか、また現在ではどのような問題点があるのかなどを、議論を通して見つけ出し、その解決に向けて考える力を養うことである。語用論の基礎としては、発話行為、ポライトネス理論、会話の推意 (conversational implicatures)や協調性の原理、決まった表現 (routine formulae)、などについて理解を深める。このコースは、国際コミュニケーション研究科のDP1 (ディプロマポリシー1) とDP3の達成に關与している。
授業の目的	このコースを履修後、受講生は次の力を身につける。語用論の基本的な概念を具体例を使って説明することができる。その語用論の理解を、自身の英語学習や英語教育においてどのように活用できるかを考え、その中でどのような課題があるのかを見つけ (課題発見能力)、その解決に向けて具体的に活用案を考える力を身につける。
到達目標	<p>第1回 授業の概要、自己紹介</p> <p>授業の概要をシラバスを使い説明し、扱う分野と内容、課題などを説明する。受講者の自己紹介を通して、これまでの自身の英語学習あるいは教育現場での経験、言語学や語用論に対する認識・知識、授業で学びたいことなどを共有する。テキストの第6章から10章から学びたいトピックを2つ選ぶ。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第2回 語用論能力について (第1章、ほか別途資料)</p> <p>語用論と統語論、意味論の関係、linguistic competence (言語能力) と pragmatic competence (語用論能力) の違いについて学び、実際の英語学習や教育現場での経験から、何をどのように学んだか・教えているかなど、グループ・ディスカッションを通して議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第3回 言語教育と語用論 (第2章)</p> <p>語用論をどのように言語学習や言語教育に活かすことができるのかについて学び、受講者間、また教員を含めたディスカッションにより議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第4回 発話行為とその種類、間接発話行為 (第3章)</p> <p>Speech actとその種類、間接発話行為について学び、その英語学習・教育への応用について議論する。人が言語表現を使ってどのような行為を行うのか、様々な表現があることを知り、その適切さについても触れながら、受講者同士でこれらについてどのように学んだか・教えているかを話し合い、課題などについても議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第5回 発話行為と英語学習・英語教育 (第3章特に後半)</p> <p>発話行為について、その英語学習・英語教育への導入について考え、受講生が実際に授業で活用する具体例をまとめ、授業で共有する。受講生が自らの案を共有し、お互いに意見を言い合い、教員も含めその有効性などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第6回 協調の原理と会話の推意 (第4章)</p> <p>文の意味と話者の意味の違いを理解し、協調の原理 (会話の公理) により、どのように会話の推意が出てくるのか具体例を通して理解する。受講者同士で、これらについてどのように学んだか・教えているかを話し合い議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第7回 会話の推意と英語学習・英語教育 (第4章特に後半)</p> <p>会話の推意や協調性の原理について、その英語学習・英語教育への導入について考え、受講生が実際に授業で活用する具体例をまとめ、授業で紹介する。受講生が自らの案を共有し、お互いに意見を言い合い、教員も含めその有効性などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第8回 学生発表1 (課題レポート1)</p> <p>ここまで学んだことから、自らの経験において語用論能力をどのように学んだか (教えているか)、もしくは学んでいないか (教えていないか) について具体例を挙げレポートにまとめ、授業で発表する。(それぞれの発表後に、Q&Aも含め、情報共有・議論を行う)</p> <p>第9回 ポライトネス (第5章)</p> <p>ポライトネスについてしくみや基礎概念、理論を学び、それらをどのように英語学習や教育に活用できるのかを議論する。特に、現在はポライトネスについてはどのような学習や教育が行われているかについて、受講者の経験について共有し、その課題などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第10回 ポライトネスと英語学習・英語教育 (第5章の後半)</p> <p>ポライトネスについて、その英語学習・英語教育への導入について考え、受講生が実際に授業で活用する具体例をまとめ、授業で紹介する。受講生が自らの案を共有し、お互いに意見を言い合い、教員も含めその有効性などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第11回 情報構造・Functional Sentence Perspective (第6章)</p> <p>文やことばの情報構造について考えるFunctional Sentence Perspectiveの見方や概念に親しみ、それらをどのように英語学習や英語教育に活かせるかについて議論する。特に、現在はこれらの情報や知識について、どのような学習や教育が行われているかについて、受講者の経験について共有し、その課題などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第12回 FSPと英語学習・英語教育 (第6章の後半)</p> <p>FSPについて、その英語学習・英語教育への導入について考え、受講生が実際に活用できる具体的な学習法やレッスン内容を、授業内で紹介する。受講生が自らの案を共有し、お互いに意見を言い合い、教員も含めその有効性などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第13回 社会言語学的視点からの談話分析 Interactional Sociolinguistics (第8章)</p> <p>文化的背景や社会的要素などを考慮して談話 (コミュニケーション) を分析するInteractional sociolinguisticsの概念などに親しみ、それらをどのように英語学習や英語教育に活かせるかについて議論する。特に、現在はこれらの情報について、どのような学習や教育が行われているかについて、受講者の経験について共有し、その課題などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第14回 Interactional Sociolinguistics と英語学習・英語教育 (第8章後半)</p> <p>Interactional sociolinguisticsで把握している内容について、どのように英語学習・英語教育へ導入できるかを考え、受講生が実際に活用できる具体的な学習法やレッスン内容を、授業内で紹介する。受講生が自らの案を共有し、お互いに意見を言い合い、教員も含めその有効性などについて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第15回 学生発表2 (課題レポート2)</p> <p>現在の英語学習・教育で、今まで見てきた様々な語用論の知識を語用論能力として身につけるうえで、課題となっていると感じる事例を挙げ、なぜそれが問題となるのかを説明する。また、それについての解決策を提示しレポートにまとめる。それについて、授業では口頭で発表する。(それぞれの発表後に、Q&Aも含め、情報共有・議論を行う)</p>
テキスト	Attardo, S. & Pickering, L. (2021). Pragmatics and its Applications to TESOL and SLA. 2nd ed. Wiley-Blackwell. ISBN: 978-1119554257
テキスト購入方法	各自購入 (Amazonなどで購入可能)

参考文献	Cohen, Andrews. (2018). Learning Pragmatics from Native and Nonnative Language Teachers. (ISBN: 978-1783099917) Ishihara, N. & Cohen, A. (2021). Teaching and Learning Pragmatics: Where Language and Culture Meet. 2nd ed. Routledge. (ISBN: 978-0367767082) Rover, Carsten. (2021). Teaching and Testing Second Language Pragmatics and Interaction: A Practical Guide. Routledge. (ISBN: 978-0367203030) Yule, G. (1996) Pragmatics. Oxford University Press.
成績評価の方法	予習・復習（discussion reflection含む）10%、具体的な活用例の紹介プレゼンテーションとディスカッション20%、課題レポート（2つ）50%、学生発表（2回）20%
教員への連絡方法	授業の前後、メール
履修上の注意	授業は全て（読み書きも発表も）英語で実施する。
授業外学修情報（予習復習）	授業前は、指定されたテキストの箇所を必ず読み、指定されたdiscussion reflectionに取り組む。また、紹介プレゼンテーションや発表がある場合は、準備をしっかりと行う。授業後は、学んだことを復習し、内容の見直しをする。1学期の授業外学修時間は合計30時間であり、1回の授業にあたり平均約2時間の予習・復習時間が求められる。
学生へのメッセージ	語用論の基礎を把握したいという方、また、それを英語学習や英語教育へ応用したいという方の履修を勧める。

講義科目名称	英語コミュニケーション研究 IV	副題	Communicative English Pronunciation
英文科目名称	English Communication Studies IV		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
小笠原 奈保美			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要) この授業では、英語音声学 (特に調音音声学) ・音韻論の基本的概念について学んでいく。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーションなどの韻律構造について学ぶ。また、英語以外のさまざまな言語の音体系と英語の音体系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比較音声学の観点から考えていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。

授業の目的 このコースは、英語音声学・音韻論の専門的な知識の修得を主な目的とする。これらの知識を応用して、受講者の英語コミュニケーションや英語教授の実践に役立ててもらいたい。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に貢献している。

到達目標 反転授業や受講者相互の議論や教員も含めた議論を通して、英語音声学・音韻論について深く学び、専門知識を身につけることができる。また、レポートやクラス内での発表を通して、論理的思考力や課題を見つけ出す力をつけることができる。

授業計画	第1回	Introduction	この授業では、英語音声学 (特に調音音声学) ・音韻論の基本的概念について学んでいく。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーションなどの韻律構造について学ぶ。また、英語以外のさまざまな言語の音体系と英語の音体系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比較音声学の観点から考えていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。
	第2回	Ch 10: Pronunciation Syllabus Design: A Question of Focus	話者一人一人の英語発音の診断の仕方を考える。テキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回	Analyzing Speech 1	音響分析ソフトPraatを使いながら、受講生が自身の英語発音を録音し、音声分析を行う。前回の授業で考えたアセスメントの方法を使いながら、発音診断を行い、その結果をクラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回	Analyzing Speech 2	音響分析ソフトPraatを使いながら、受講生が自身の英語発音を録音し、音声分析を行う。今回は特に英語母音にフォーカスし、母音スペースの作り方と診断の仕方を学び、その結果をクラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回	Ch 9: A Communicative Approach to Pronunciation Teaching	英語発音の練習を目的としたクラス内アクティビティの種類や方法についてテキストの内容をまとめ、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回	Ch 11: Suprasegmentals in the Pronunciation Class: Setting Priorities	ストレス、イントネーション、調音結合、ポーズなどの韻律構造を練習するアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回	Ch 12: Pronunciation-Based Listening Exercises	リスニングスキルを使って英語発音を練習するアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回	Ch 13: Teaching Pronunciation: An Inventory of Techniques	個別の音を正確に発音するための練習や流暢に発音するための練習に役立つアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つアクティビティを受講生が考える。テキストやアクティビティの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回	Ch 14: Developing Self-Correcting and Self-Monitoring Strategies	self-monitoringやself-correcting、フィードバックの与え方などについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つテクニックを受講生が考える。テキストやテクニックの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回	Ch 15: Developing Natural and Confident Speech: Drama Techniques in the Pronunciation Class	自然で自信を持った英語発音を練習するためのドラマテクニックを使ったアクティビティについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で役立つテクニックを受講生が考える。テキストやテクニックの発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回	Ch 16: Unintelligibility and the ESL Learner	ノンネイティブの話者の英語発音が聞き手に理解されない原因やその解決策についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。また、実際の教育現場や英語を使ったコミュニケーションの場面で聞き手に理解される英語発音のあり方を受講生が考え、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回	Practicum: Individual Sound Practice	英語の子音や母音などの個別の音を効率よく練習するためのアクティビティや課題を受講生が考え、クラス内で実践する。また、実際の教育現場で実践が可能な場合は、その成果や問題点をまとめ、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回	Practicum: English Prosody Practice	英語のストレス、母音弱体化、リズム、イントネーションなどの韻律にフォーカスし、効率よく練習するためのアクティビティや課題を受講生が考え、クラス内で実践する。また、実際の教育現場で実践が可能な場合は、その成果や問題点をまとめ、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回	Practicum: English Drama	ドラマテクニックを用いたアクティビティを受講生が考え、クラス内で実践する。また、実際の教育現場で実践が可能な場合は、その成果や問題点をまとめ、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回	Review	これまで学んだことについて学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)

テキスト	Peter Avery & Susan Ehrlich, 『Teaching American English Pronunciation』 Oxford Handbooks for Language Teachers, Oxford University Press. ISBN: 9780194328159
テキスト購入方法	各自で購入すること。
参考文献	Peter Ladefoged, 『A Course in Phonetics, 5th ed.』 Thomson Wadsworth. ISBN: 9781413020793, 『ビジュアル音声学』川原繁人著 三省堂 ISBN: 9784385365329
成績評価の方法	テキストのプレゼンテーション50%、Practicum 50%
教員への連絡方法	授業の前後の時間を利用する。または、email, Google Classroomを通して連絡する。
履修上の注意	英語で授業を行う。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。 事後学習：授業で学んだことを復習し、理解を深める。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	毎時間、テキストで事前に指示されたところを読み込んでおく。

講義科目名称	英語学研究 I	副題	Introduction to Linguistics
英文科目名称	English Linguistics Studies I		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
吉村 敬子			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	<ul style="list-style-type: none"> 授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他
アクティブラーニング	<ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容 (概要)	このコースでは、言語学の主な分野を紹介し、主に英語を例として言語理論の基礎的な概念を学んでいく。具体的な学習内容としては、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の分野について理解を深め、さらに学生が興味のある分野を次の中から3つ選び学ぶ：談話分析、言語と脳、第一言語獲得、第二言語習得、ジェスチャーと手話、歴史言語学、社会言語学（地域・社会）、言語と文化）。授業形式としては、事前に英語のテキストを読み、練習問題（study questions）などを活用して内容を予習する。授業内では、study questionsの解答を確認しながらグループディスカッションなども行い、より理解を深める。まとめの回には、テキスト内の割り振られた課題（Tasks）について学生が発表を行い内容を復習する。集大成として、学生は自分の興味のある題材（分野）を選び、自ら考察・研究した内容を発表するとともに、レポートにまとめる。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）
授業の目的	このコースの主な目標は、音声学（音）、音韻論（音の構造とパターン）、形態論（単語の構造）、統語論（文の構造）、意味論（単語と文の意味）、語用論（話し手が言語表現をどのように使ってコミュニケーションをとるか）という言語学の基本分野を理解し、言語理論の基礎を理解することである。それにより、言語学（英語学）とはどのようなものか、どのようなアプローチや理論があるのかを知り、自らの研究の興味を探り見つけ出す力を養う。このコースは、国際コミュニケーション研究科のDP1（ディプロマポリシー1）とDP3の達成に關与している。
到達目標	このコースを履修後、学生は次の力を身につける。言語学の基本的な概念と方法を具体例を使って説明することができる。様々な言語現象についてデータを考察し、指定された骨組みを適用して分析し、それを分かりやすく口頭でも書面でも表現・説明することができる。
授業計画	<p>第1回 授業の概要、言語学の諸分野の紹介</p> <p>授業の概要をシラバスを使い説明し、扱う分野と内容、課題などを説明する。テキストの目次を参照しながら、学生と話し合い、新たに3つのトピックを決定する。学生の課題(Tasks)発表の分野の割り振りをする。</p>
	<p>第2回 音声学（第3章）</p> <p>人間の言語として英語の音についての特徴を学び、言語音をどのように分類・分析できるかを学ぶ。音を表す記号として国際発音記号(IPA)に親しむ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第3回 音韻論（第4章）</p> <p>言語における音のパターンについて学び、音素、異音、最小対・最小対立、音素配列などの概念を学ぶ。また、英語の音節の特徴、実際の発音における音の変化のパターンについても学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第4回 形態論（第6章と第5章の一部）</p> <p>語はどのように形成されているのか、語の内部構造がどのようになっているのかを知り、形態素とその種類や特徴、また異形態などの概念を学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第5回 形態論（第5章）、統語論の最初（第7章）</p> <p>前半は、語形成の方法として、派生以外の方法を学ぶ。後半は、文の構造について学ぶに当たり、構成素分析について学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第6回 統語論（第8章）</p> <p>文の構造にはどのような規則性があるのかを学び、構成素 (constituent) の種類と名称を理解し、句構造規則、樹形図、移動の規則など、生成文法の理論に親しむ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第7回 まとめ・復習のための学生発表</p> <p>それぞれの分野において、テキスト内の割り振られた課題 (Tasks) について学生が発表を行い、これまでの講義内容（音声学、音韻論、形態論、統語論）の復習をする。それぞれの発表後に、Q&Aをもち、他の学生の見方や考え方も共有し、議論する。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第8回 意味論（第9章）</p> <p>主に語の意味に関して、言語学においてどのような分析方法があるのかを学ぶ。特に、意味素性 (semantic features)、主題役割 (thematic roles)、様々な意味関係について学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第9回 語用論（第10章）</p> <p>ここでは実際のコミュニケーションの場面においてどのように解釈できるかを発話することによって話者はどのような行動を行っているのかなど、言語の使用について学ぶ。特に、コンテクスト、直示表現、推論 (inference)、照応 (anaphora)、前提 (presupposition)、発話行為などの概念を学ぶ。練習問題とディスカッション。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第10回 語用論（第11章の一部）</p> <p>グライスの協調性の原理を学び、人がコミュニケーションを取る際、どのように相手の意図を読み取るかを理解する。会話の公理、会話の推意 (conversational implicature) などの概念を学ぶ。練習問題により実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第11回 トピック1（談話分析、言語と脳、第一言語獲得、第二言語習得、歴史言語学、社会言語学（地域・社会）、言語と文化から選択）</p> <p>学生の選んだトピックについて学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第12回 トピック2（談話分析、言語と脳、第一言語獲得、第二言語習得、歴史言語学、社会言語学（地域・社会）、言語と文化から選択）</p> <p>学生の選んだトピックについて学ぶ。テキスト内の練習問題などを活用し実際の言語データの分析を行う。また、それについてグループ・ディスカッションをして、様々な見方や考え方を共有し、理解を深める。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第13回 まとめ・復習のための学生発表</p> <p>それぞれの分野において、テキスト内の割り振られた課題 (Tasks) について学生が発表を行い、これまでの講義内容（意味論、語用論、その他2つ）の復習をする。それぞれの発表後に、Q&Aをもち、他の学生の見方や考え方も共有し、議論する。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第14回 振り返り・課題レポートとプレゼンテーションについて</p> <p>このコースで学んできたことを復習しながら、それぞれの課題レポートに向けて、再度言語を研究することや分析の方法について考え、特に関心があることについて話し合う。（双方向または多方向に行われる討論を伴う授業）</p>
	<p>第15回 課題レポートのプレゼンテーション</p> <p>学生は自分の興味のある題材（分野）について、自ら考察・研究した内容を発表する。（レポートも提出）</p>
テキスト	Yule, George (2022) The Study of Language (8th ed), Cambridge University Press. (ISBN: 978-1009233408)

テキスト購入方法	各自購入（8th editionなので、必ず確認）
参考文献	O'Grady, Archibald, and Katamba. (2011). Contemporary Linguistics: An Introduction. 2nd ed. Pearson Education Limited. Parker and Riley. (2004). Linguistics for Non-Linguists: A Primer with Exercises. 4th ed. Allyn & Bacon. 安藤・澤田（編）(2001) 英語学入門 開拓者 三原・高見（編）(2013) 日英対照：英語学の基礎 くろしお出版
成績評価の方法	予習・復習15%、予習内容の発表20%、グループディスカッション・議論5%、課題プレゼンテーション20%、課題レポート40%
教員への連絡方法	授業の前後、メール
履修上の注意	授業は全て（読み書きも発表も）英語で実施する。
授業外学修情報（予習復習）	授業前は、指定されたテキストの箇所を必ず読み、指定された練習問題に取り組む。また、発表がある場合は、発表の準備をしっかりと行う。授業後は、学んだことを復習し、練習問題の見直しやあらたな課題に取り組む。1学期の授業外学修時間は合計30時間であり、1回の授業にあたり約2時間の予習・復習時間が求められる。
学生へのメッセージ	言語学・英語学の諸分野を把握したいという学生に、言語学への入門の科目として履修を勧める。

講義科目名称	英語学研究 II	副題	English Semantics
英文科目名称	English Linguistics Studies II		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
細井 洋伸			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等 授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他 アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容(概要)	この授業では、意味論に必要とされる基本的概念について、特に形式意味論の観点から、英語を例に取り上げて考えていく。具体的には、単語や文に関係する意味、デンス、モダリティ、さらには、命題論理、述語論理にも少し触れていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。(上記「授業種類」に記載されているように、この授業は「実務家教員」による授業である。)
授業の目的	このコースは、英語でのコミュニケーションに関する研究の基礎となる意味論に関して、その基礎について、議論を通して深く理解する。具体的には、特に形式意味論の観点から意味について考えていく。あわせて、これまでの理論的な考え方について考察し、課題を見つけ出す力を養う。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に關与している。
到達目標	「形式意味論」の基本的概念を習得することにより、コミュニケーションで使われる英語の表現についての理解を深めることができ、より正確に、しかも適切に英語の表現を使うことができるようになる。また、受講者相互の議論や教員も含めた議論を通して、これまでの理論的な考え方について考察をし、課題を見つけ出す力をつける。
授業計画	<p>第1回 イントロダクション このコースの概要を説明し、それぞれの回の授業の概要から、どのような問題が議論の対象となってくるかについて、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第2回 Meaning, Thought, and Reality : Reference as a Theory of Meaning. 言語の意味は指示的な意味 (reference) という考え方から言語の様々な意味について考え、その考え方の問題点などを考えていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第3回 Word Meaning (Homonymy, Polysemy, Synonymy) この授業では、語の意味関係のうち、特にHomonymy (同音異義)、Polysemy (多義性)、Synonymy (同義) に関して、それぞれの概念について考えていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第4回 Word Meaning (Opposites, Hyponymy, Meronymy) この授業では、語の意味関係のうち、特にOpposites (反意語)、Hyponymy (包摂関係)、Meronymy (部分・全体関係) に関して考えていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第5回 Logic and Truth (1) : Negation and Conjunction この授業では、Propositional Logic (命題論理) について考えていく。その中でも、特にNegation (否定)、Conjunction (連言) について、特に私達が日常使っている自然言語の意味と比較しながら議論をしていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第6回 Logic and Truth (2) : Disjunction and Material Implication 前回に続きPropositional Logic (命題論理) について話し合っていくが、この授業では特に、Disjunction (選言) と Material Implication (実質的含意) について、特に私達が日常使っている自然言語の意味と比較しながら議論をしていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第7回 Presupposition and Entailment 発話には、話者がその発話以前に聞き手にも知られていると見なしているような情報がある。Entailment (伴立) と Presupposition (前提) は、そのような情報の異なるタイプのものである。この授業では、その Entailment (伴立) と Presupposition (前提) について考えていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第8回 Predicate Logic (1) 第6回と第7回の授業で議論した Propositional Logic (命題論理) は、自然言語の現象を扱うではいろいろな問題点が生じる。この授業では、どのような問題が生じるのか、また述語論理 (Predicate Logic) では、その問題がどのように解決されるのかについて考えていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第9回 Predicate Logic (2) この授業では第8回に引き続き、述語論理 (Predicate Logic) について考えていく。その中でも、特に every や some のような量量子を含む文の意味について考えていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第10回 Sentence Semantics: Classifying Situations この授業では、述語となる語や句にどのような状況タイプ (situation type) があるのか、また、そのような状況タイプを区別するには、どのようなテストがあるのかについても考えていく。授業では、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第11回 Ch 8 Pragmatics: Presupposition 話し手は発話をする際、発話以前に事実だと想定していることがあり、そのような情報に基づいて私達のコミュニケーションは成り立っている。そのような presupposition の種類、特徴について、また、実際の会話でそのような特徴がどこまで当てはまっているのか、どんな問題が生じるのかについて、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第12回 Ch 8 Pragmatics: Grice's Cooperative Principle and the Conversational Maxims 私達がコミュニケーションを行う時に暗黙のうちに従っているとされている Grice's Cooperative Principle と the Conversational Maxims の種類、特徴を確認し、また、実際の私達のコミュニケーションの中でどのように Conversational Implicature が使われているか、英語と日本の間に何か違いはあるのかを、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第13回 Ch 8 Pragmatics: Conversational Implicature 私達の会話は、文字通りの意味以外に、表面には出てこない含意を持ちうる。そのような Conversational Implicature の特徴、様々な種類について、また実際の私達のコミュニケーションの中で、どのように Conversational Implicature が使用されているのか、英語と日本の間に何か違いはあるのかについて、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第14回 Ch 8 Pragmatics: Speech Act 言葉は、情報伝えるだけでなく、行為を行うこともできる。そのような Speech Act とはどのような特徴があるのか、また英語のコミュニケーションにおける Speech Act と日本語のコミュニケーションにおける Speech Act の間にどのような違いがあるのかについて、学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第15回 レポートの発表 授業でやったことや感じたこと、特に関心があることについてレポートにまとめてもらい、それを発表してもらい、また、その内容について授業で議論していく。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p>

テキスト	<i>An Introduction to English Semantics and Pragmatics</i> . (Patrick Griffiths) Edinburgh University Press.
テキスト購入方法	授業中に指示する。
参考文献	授業中に指示する。
成績評価の方法	プレゼンテーション50%、学期末レポート50%
教員への連絡方法	授業の前後の時間を利用する。
履修上の注意	英語で授業を行う。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの予定箇所、参考文献について、事前により読み込んでおく。 事後学習：授業で学んだことを復習し、理解を深める。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	毎時間、テキストで事前に指示されたところを読み込んでおく。

講義科目名称	英語学 III	副題	English Syntax
英文科目名称	English Linguistics Studies III		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
深谷 晃彦			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input checked="" type="checkbox"/> 日本語 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要)
 コミュニケーションの基本となる言語自体をより深く理解するために、英語の統語面を中心に分析方法を学ぶ。分析の枠組みとしては、生成文法の原理とパラメータ理論を用いる。予習内容に基づき教員と受講者でディスカッションを行い、双方向あるいは多方向に行われる討論を通して内容をより深く理解していく。(この授業は「実務家教員」による、実践的な方法による授業である。)

授業の目的
 学習文法の枠組みを越えて、さらに踏み込んだ文法現象について理解を深めることを目的とする。英語における現象が中心となるが、必要に応じて日本語との比較検討も行う。また、教員・受講者によるディスカッションを通して、知識の深化および問題点の発見とその解決策の検討を進めていくことにより、論理的思考、問題発見・解決能力を身に付けることも目的とする。この授業は、国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に寄与する。

到達目標
 ・生成文法の原理とパラメータ理論の枠組みによる、英語の基本構文の統語分析方法を理解し、自分で文の分析ができる。
 ・ディスカッションを通してこれを達成することにより、発表力や論理的思考、問題発見・解決能力を身につけている。

授業計画	第1回	Chapter 1: Doing Science with Language: Introductory Concepts	自然科学としての言語学、特に生成文法の基本的な考え方について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、仮説形成と検証、言語生得説、普遍文法などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回	Chapter 2: The Structure and Classification of Words	語の構造と分類について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、品詞、語形成、接辞などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回	Chapter 3: Determining the Structure of Sentences	文の構造について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、句構造、構成素、階層構造などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回	Chapter 4: Rules of Sentence Structure: A First Approximation	文構造の規則について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、句構造規則、再帰性、構造的曖昧性などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回	Chapter 5: Assigning Meaning in Sentences	文の意味について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、文法機能、主題役割、項構造などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回	Chapter 6: Some Category-Neutral Processes	範疇中立的な言語操作について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、等位接続、代用表現などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回	Chapter 7: How Structure Affects Pronoun Reference	代名詞の指示について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、c統御、否定極性表現、束縛理論などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回	Chapter 8: Complex Verb Forms	動詞の統語について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、再帰的動詞句仮説、接辞移動、D構造、S構造、変形規則などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回	Chapter 9: Real vs. Apparent Sentence Structure	抽象的な文構造について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、主語助動詞倒置、do補助、接辞移動、VからTへの移動などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回	Chapter 10: Generalizing Syntactic Rules	統語規則の一般化について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、動詞句・名詞句・形容詞句・前置詞句の構造、指定部規則、補部規則、付加部規則などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回	Chapter 11: Functional Categories	機能範疇について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、X _{bar} 理論、パラメータなどの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回	Chapter 12: Questions, Relative Clauses, and WH Movement	AJ _r 移動について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、WH疑問文、関係詞節などの生成過程において仮定されるWH移動の概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回	Chapter 13: NP Movement	A移動について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、動詞句内主語仮説、受動態、主語繰り上げなどの概念を学ぶ。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回	Chapter 14: Things to Come: Various Aspects of "Current Theory"	その他の発展的な統語現象について、予習内容に基づき教員・受講生でディスカッションすることにより理解を深める。特に、非対格仮説、VPシールド仮説、主題付与均一性仮説などの概念を学ぶ。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回	Summary and Review	第1回から第14回までの議論を振り返り、生成文法の原理とパラメータ理論について全体像を概観する。生成文法のその後の理論展開についても触れる。(実務家教員による授業)

テキスト
 Sobin, Nicholas. 2010. *Syntactic Analysis: The Basics*. Wiley-Blackwell. (ISBN: 9781444335071)

テキスト購入方法
 各自で購入する。

参考文献	渡辺明（2009）『生成文法』東京大学出版会 中村捷他編（2002）『英語の主要構文』研究社 中島平三編（2001）『〈最新〉英語構文事典』大修館書店 畠山雄二編（2019）『正しく書いて読むための英文法用語事典』朝倉書店 田子内健介（2020）『英文法基礎論』開拓社 安藤貞雄著（2005）『現代英文法講義』開拓社 安井稔・安井泉（2022）『英文法総覧 大改訂新版』開拓社
成績評価の方法	ディスカッション：50%、課題：50%
教員への連絡方法	初回の授業で提示するメールアドレスによる。
履修上の注意	特になし。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの指定範囲を読み、要点や疑問点を整理しておく。 事後学習：テキストの指定範囲やディスカッションの内容を復習する。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	テキストの指定範囲を読んできていることが前提となるので、必ず予習をしてください。

講義科目名称	英語学研究IV	副題	English Phonetics & Phonology
英文科目名称	English Linguistics Studies IV		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
小笠原 奈保美			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input type="checkbox"/> 日本語
<input checked="" type="checkbox"/> 英語	
<input type="checkbox"/> その他	
	アクティブラーニング
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要) この授業では、英語音声学 (特に調音音声学)・音韻論の基本的概念について学んでいく。具体的には、英語の子音、母音、調音結合、音節構造、リズム・ストレス・イントネーションなどの韻律構造について学ぶ。また、英語以外のさまざまな言語の音体系と英語の音体系を比較することで、各言語の母語話者にとって難しいと予想される英語の発音について、比較音声学の観点から考えていく。授業形式は、反転授業の形式を取り、自宅で予習してきた新たな学習内容を、課題シートなども利用しながら、受講者相互で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。

授業の目的 このコースは、英語音声学・音韻論の専門的な知識の修得を主な目的とする。これらの知識を応用して、受講者の英語コミュニケーションや英語教授の実践に役立ててもらいたい。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に關与している。

到達目標 反転授業や受講者相互の議論や教員も含めた議論を通して、英語音声学・音韻論について深く学び、専門知識を身につけることができる。また、レポートやクラス内での発表を通して、論理的思考力や課題を見つけ出す力をつけることができる。

授業計画	第1回	Introduction, Ch 1: Spelling and Pronunciation
		このコース概要の説明。英語音声学について受講者が現段階で持っている知識や疑問点などをまずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。英語の綴りと発音の違いについてクラス討議を行う。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回	Ch 2: Individual Sounds of English (consonants)
		子音を特徴づける3要素 (人間の調音器官、声道内の空気の流れ方、声帯振動)を中心にテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回	Ch 2: Individual Sounds of English (vowels)
		母音を特徴づける4要素 (口腔内での舌の位置、舌の盛り上がり方、円唇化、口周りの筋内の緊張)を中心にテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回	Ch 3: English Sounds in Context
		個別の英語の音が単語の中で周りの音に影響されてどのように変化するか、調音結合のメカニズムについてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回	Ch 4: The Shape of English Words
		発音、聞き取りの単位である英語の音節構造についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回	Ch 5: Word Stress and Vowel Reduction
		日本語にはない英語のストレスの仕組みと母音の弱体化についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回	Ch 6: Connected Speech
		句や文章単位で発音するときには注意すべき英語の韻律 (リズム、文ストレス、イントネーション)、リンキング、音の消去や同化についてテキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回	Review
	これまで学んだことをレビューし、疑問点や十分議論がなされていない事柄について学生相互で議論し、その後教員を含めてクラス全体で議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
第9回	レポート発表	
	これまで学んだことで、特に関心があることについてレポートにまとめてもらい、それを発表してもらう。また、その内容について、受講者同志や教員を含めて授業で議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
第10回	Ch 7: Common Pronunciation Problems	
	ノンネイティブ話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、英語の音声・韻律構造から考える。テキストの内容を受講生がまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
第11回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (Arabic, Farsi, Greek)	
	アラビア語、ペルシャ語、ギリシャ語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容と受講生が自分で調べた各言語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
第12回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (Chinese, Korean, Vietnamese)	
	中国語、韓国語、ベトナム語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容と受講生が自分で調べた各言語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
第13回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (French, Italian, Portuguese, Spanish)	
	フランス語、イタリア語、ポルトガル語、スペイン語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容と受講生が自分で調べた各言語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
第14回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (German, Hindi & Punjabi, Polish)	
	ドイツ語、ヒンドゥー語・パンジャビ語、ポーランド語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容と受講生が自分で調べた各言語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	
第15回	Ch 8: Problems of Selected Language Groups (Japanese)	
	日本語話者が英語の発音で直面する難しさやその難しさはどこから来るのか、母語と英語の構造の違いから考察する。テキストの内容と受講生が自分で調べた日本語の特質を含めて、比較音声学・音韻論の見地から内容をまとめて、クラス内で発表する。発表内容について学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)	

テキスト Peter Avery & Susan Ehrlich, 『Teaching American English Pronunciation』 Oxford Handbooks for Language Teachers, Oxford University Press. ISBN: 9780194328159

テキスト購入方法	各自で購入すること。
参考文献	Peter Ladefoged, 『A Course in Phonetics, 5th ed.』 Thomson Wadsworth. ISBN: 9781413020793, 『ビジュアル音声学』川原繁人著 三省堂 ISBN: 9784385365329
成績評価の方法	テキストのプレゼンテーション50%、レポート（プレゼンテーション含む）50%
教員への連絡方法	授業の前後の時間を利用する。または、email, Google Classroomを通して連絡する。
履修上の注意	英語で授業を行う。
授業外学修情報（予習復習）	事前学習：テキストの予定箇所、参考文献について、事前にしっかり読み込んでおく。 事後学習：授業で学んだことを復習し、理解を深める。 1学期の授業外学修時間：合計30時間（1回の授業にあたり合計約2時間の予習・復習）
学生へのメッセージ	毎時間、テキストで事前に指示されたところを読み込んでおく。

講義科目名称	応用言語学研究 I	副題	Introduction to Language Acquisition
英文科目名称	Applied Linguistics I		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員	梅田 真理		

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 <input type="checkbox"/> 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等 授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容（概要）	この授業では母語獲得のメカニズムについて学ぶ。乳幼児による言語音の知覚と産出、語彙や文構造の習得など、英語の習得のデータを中心に紹介する。授業では、毎回予習で学習してきた内容をまとめ、議論を通して内容を深く理解していく。
授業の目的	母語獲得のしくみについての基礎的な知識を身につける。
到達目標	母語獲得の基礎概念を学ぶことによって、子ども言語発達について記述や考察ができるようになる。
授業計画	<p>第1回 <input type="checkbox"/> イントロダクション クラス運営、課題、テキスト等について説明する。</p> <p>第2回 <input type="checkbox"/> 言語音の知覚 乳児の言語音の知覚や分節化に関する調査を読み、その発達過程について検証する。</p> <p>第3回 <input type="checkbox"/> 語彙の習得(1) 派生形態素、屈折形態素の獲得について学ぶ。形態素の習得の際に生じる過剰一般化や複合語の習得について考える。</p> <p>第4回 <input type="checkbox"/> 語彙の習得(2) 名詞と動詞の獲得について学ぶ。子どもは驚くべきスピードで名詞や動詞を習得するが、なぜそのようなことが可能なのか、そのメカニズムについて考える。</p> <p>第5回 <input type="checkbox"/> 語彙の習得(3) 形容詞、前置詞、代名詞の獲得について学ぶ。名詞や動詞に比べ、形容詞や前置詞には習得に時間を要するものが存在する。どのような形容詞、前置詞の習得が遅いのか、そして理由について考える。</p> <p>第6回 <input type="checkbox"/> 文構造の習得(1) 基本語順（主語、目的語など）と文法形態素の習得について学ぶ。子どもは文法形態素をある一定の順序で習得すると報告されている。どの形態素が習得が早く、どの形態素の習得が遅いのか、その習得のメカニズムについて考える。</p> <p>第7回 <input type="checkbox"/> 文構造の習得(2) 子どもは否定文と疑問文の習得を同じ段階を経て習得すると報告されている。習得の段階とはどのようなものなのか、そしてその習得のメカニズムについて考える。</p> <p>第8回 <input type="checkbox"/> 文構造の習得(3) 受動文と空範囁の獲得について学ぶ。子どもは、受動文や空範囁を伴う文の意味を理解するのに時間がかかると報告されている。なぜ習得が遅いのか、そのメカニズムについて考える。</p> <p>第9回 <input type="checkbox"/> 文構造の習得(4) 代名詞の獲得について学ぶ。子どもは再帰代名詞よりも代名詞の方が習得が遅いと報告されている。なぜそのような順序になるのか、そのメカニズムについて考える。</p> <p>第10回 <input type="checkbox"/> 言語音の産出(1) 喃語期や一語期、二語期における子どもの言語の特徴を通し、言語音の産出における発達過程を検証する。</p> <p>第11回 <input type="checkbox"/> 言語音の産出(2) 第10回に引き続き、言語音の産出における発達過程を検証する。</p> <p>第12回 <input type="checkbox"/> 言語習得のメカニズム(1) マザリーズや否定証拠など、言語獲得におけるインプットの効果について検証をする。</p> <p>第13回 <input type="checkbox"/> 言語習得のメカニズム(2) 言語獲得理論の一つである、「普遍文法」からのアプローチについて学ぶ。</p> <p>第14回 <input type="checkbox"/> 言語習得のメカニズム(3) 「普遍文法」以外の言語獲得理論のアプローチについて学ぶ。</p> <p>第15回 <input type="checkbox"/> まとめ 授業で学んだことをまとめ、その内容について、受講者同士や教員を含めて授業で議論していく。</p>
テキスト	O'Grady, W. (2005) <i>How Children Learn Language</i> . Cambridge University Press.
テキスト購入方法	授業中に指示する。

参考文献	Glinkoff, R. M. & Hirsh-Pasek, K. (2000). How Babies Talk. New York, NY: PLUME.
成績評価の方法	発表30%, 課題70%
教員への連絡方法	Eメール、Google Classroom、ポータルの何れかを使い、メッセージを送ってください。
履修上の注意	テキストを必ず購入してください。その他、授業中に指示する。
授業外学修情報（予習復習）	1学期の授業外学修時間 合計30時間(授業予習・復習, 課題の解答, レポート/発表の準備・執筆)
学生へのメッセージ	言語習得のプロセスは大変複雑で、まだ解明されていないことが数多くありますが、皆さんにとってこの授業が 母語獲得の仕組みについて考える第一歩になってもらえたらと思っています。

講義科目名称	応用言語学研究 II	副題	Introduction to Second Language Acquisition
英文科目名称	Applied Linguistics Studies II		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
スネイプ ニール			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input type="checkbox"/> 日本語
	<input checked="" type="checkbox"/> 英語
	<input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要)

The class format is a flipped classroom format, in which students deeply understand the new learning content they have prepared at home through interactive or multidirectional discussions, such as discussions among students and discussions with teachers. In addition, while looking back on the students' own experiences in English learning and in the field of education, participants discuss with each other what topics are difficult to understand and acquire as learners, and then discuss with the instructor. Furthermore, by applying the concept to a wider range of language data while conducting group discussions, we will deepen our understanding of SLA topics, and consider the differences between first language acquisition and second language acquisition. Students learn through conducting group discussions in class. [Classes with interactive or multi-directional discussions]

授業の目的

The purpose of this course is to introduce students to some well-known topics in second language acquisition (SLA). This course provides an in-depth understanding of SLA terminology in English through discussion. In addition, while reflecting on students own experiences in English learning and in the field of education, we will discuss what points of second language acquisition of English and other languages that are difficult for learners to understand and why. Specifically, we will consider what makes acquisition of a second language harder than acquisition of the first language. At the same time, students will consider theoretical ideas up to now and cultivate the ability to identify issues.

到達目標

By mastering the basic concepts of SLA, students will be able to deepen their understanding of SLA topics. In addition, through discussions among students and with the instructor, students will consider their theoretical ideas and acquire the ability to identify issues.

授業計画	第1回 Introduction
	By explaining the outline of the course and relating to the topics covered in this course, students and instructors will discuss with each other what topics are difficult to understand and master as learners, while looking back on their own experiences in English learning and the educational field. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第2回 Finiteness and Second language (L2) Learners
	When we say "finiteness" we discuss with each other what we are talking about and what "grammar" means in the first place, and how this relates to L2 studies. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第3回 Universal Grammar (UG)
	There are various types of theories related to acquisition. In class, students first discuss how they think language is acquired by humans. At the same time, we will discuss the characteristics of English and Japanese and how differences between languages can be described. Then, we will discuss Universal Grammar (a nativist approach to language acquisition) and how the theory describes languages and language acquisition. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第4回 The Critical Period Hypothesis (CPH)
	What is the 'critical period'? Students discuss what they know about the Critical Period Hypothesis and how it has been applied to language acquisition and by extension, to second language acquisition. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第5回 Poverty of the Stimulus (PoS)
	Students are asked to consider what the 'Poverty of the Stimulus' refers to when discussing first and second language acquisition. How can successful language acquisition be explained if we fail to consider PoS? How is PoS related to Universal Grammar? Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第6回 The Fundamental Difference Hypothesis (FDH)
	The Fundamental Difference Hypothesis - Students discuss the proposal that first language acquisition is fundamentally different from second language acquisition. We will consider what the differences are and what this means for the role of Universal Grammar in SLA. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第7回 First Language (L1) Transfer - Prosody (PTH)
	Another more recent idea comes in the form of the Prosodic Transfer Hypothesis. Students discuss what they know about prosodic transfer generally from their own experience with learning English. We then go into detail what this particular hypothesis lays out in terms of what may be difficult to acquire in regards to morphology in the second language. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第8回 Binding Theory
	One of the key ideas originally proposed with Universal Grammar was the idea that reflexive pronouns (e.g., himself) are somehow 'attached' or 'bound' to the name or pronoun that precedes it (e.g., John took a picture of himself). Students will use their knowledge of finiteness to be able to understand binding theory and what the consequences are for SLA. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
第9回 L1 Transfer - Tense and Aspect	
After explaining the characteristics of English 'Tense' and 'Aspect', students discuss how the Japanese 'Tense' and 'Aspect' system differs from English and how transfer affects Japanese learners of English and English learners of Japanese. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	
第10回 Bottleneck Hypothesis and Feature Reassembly Hypothesis (BH & FRH)	
The Bottleneck Hypothesis suggests that in SLA, meanings themselves are not problematic; working out how they are expressed via second language morphology is what causes problems, creating an acquisition bottleneck. The Feature Reassembly Hypothesis believes that the process of learning L2 is not only about selecting formal features not selected in L1, but also the feature bundles associated with functional categories and vocabularies, including those that are selected. We discuss in class what these hypotheses mean for second language learners. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	
第11回 Representational Deficit Hypothesis and Missing Surface Inflectional Hypothesis (RDH & MSIH)	
The Representational Deficit Hypothesis is about the apparent failure of most adult second language learners to achieve native-like success. Alertantly, another explanation for non-target like suppliance of morphology is the Missing Surface Inflectional Hypothesis which does not assume a deficit. We discuss in class what these hypotheses mean for second language learners. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	
第12回 A Comparison Between UG and Non-UG Frameworks - 'Empiricist Emergentist' Approach	
This topic is the first of two that look at language acquisition from a different perspective. Students are to discuss the 'Empiricist Emergentist' Approach and determine how it differs from a nativist approach. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	
第13回 A Comparison Between UG and Non-UG Frameworks - 'Nativist Emergentist' Approach	
This is the second look at language acquisition from a different perspective. Students are to discuss the 'Nativist Emergentist' Approach and determine how it differs from the 'Empiricist Emergentist' Approach. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	

	<p>第14回 L1 Transfer and Instruction</p> <p>Students have a chance to discuss the role of L1 transfer and how this may affect instruction in the second language. Students can discuss their own experiences of instruction and whether it helps overcome L1 transfer effects. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</p>
	<p>第15回 Presentation</p> <p>Students have to present on an SLA topic they are particularly interested. In addition, there will be Q&A and each topic will be discussed in class. Discussion will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</p>
テキスト	Snape, N. & T. Kupisch (2016). <i>Second Language Acquisition: Second Language Systems</i> . Croydon, UK. Bloomsbury
テキスト購入方法	Students are able to purchase the course book online at https://www.amazon.co.jp
参考文献	Students will be able to download copies of lecture slides as handouts from Google Classroom.
成績評価の方法	Presentations 50%, term papers 50%
教員への連絡方法	email: nealsnape@mail.gpwu.ac.jp
履修上の注意	Students are required to purchase the course book.
授業外学修情報（予習復習）	Pre-study: Read the planned parts of the text and references carefully in advance. Post-learning: Review and deepen your understanding of what you have learned in class.
学生へのメッセージ	Most of the classes given throughout the course are based on the course book. Where the book does not cover a particular topic, handouts will be provided to students.

講義科目名称	応用言語学III	副題	Applied Second Language Acquisition
英文科目名称	Applied Linguistics Studies III		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
スネイプ ニール			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要)

The class format is a flipped classroom format, in which students deeply understand the new learning content they have prepared at home through interactive or multidirectional discussions, such as discussions among students and discussions with teachers. In addition, while looking back on the students' own experiences in English learning and in the field of education, participants discuss with each other what topics are difficult to understand and acquire as learners, and then discuss with the instructor. Furthermore, by applying the concept to a wider range of language data while conducting group discussions, we will deepen our understanding of Applied SLA topics, and consider the role of instruction in second language acquisition. Students learn through conducting group discussions in class. [Classes with interactive or multi-directional discussions]

授業の目的

The purpose of this course is to introduce students to intervention research in second language acquisition. This course provides an in-depth understanding of intervention research in SLA through discussion. In addition, while reflecting on students own experiences in English learning and in the field of education, we will discuss the type of intervention research that has been conducted to date. Students will consider further topics for intervention research.

到達目標

By mastering the basic concepts of intervention research in SLA, students will be able to deepen their understanding of the role of instruction in SLA. In addition, through discussions among students and the instructor, students will consider their theoretical ideas and acquire the ability to identify issues.

授業計画	第1回 Introduction
	By explaining the outline of the course and relating to the topics covered in this course, students and instructors will discuss with each other what topics are difficult to understand and master as learners, while looking back on their own experiences in English learning and the educational field. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第2回 Theoretical Foundations
	Students have a chance to discuss what they have learnt so far about SLA and the theoretical foundations, i.e., Universal Grammar. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第3回 Intervention Research and Grammar Teaching
	This provides students an overview of what intervention research is and the type of interventions have been administered regards to grammar teaching. Students discuss their own teaching experiences and what their students find difficult to acquire in English. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第4回 Articles
	One of the more challenging aspects of learning English is the article system (the & a). Students have the chance to discuss their own experiences with learning the article system. Then, we look at an overview of intervention studies related to article instruction. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第5回 Verb Placement and Question Formation
	We next turn to syntax (word order) and its interaction with verbal morphology. It is concerned with the position of the verb with respect to other elements in the sentence and, most importantly, the position of the verb in main and embedded clauses and in the formation of questions. Students will be able to discuss the topic together and check their own understanding. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
第6回 Inflectional Morphology	
We address the SLA of inflectional morphology, in particular, the markers of tense, agreement, and grammatical gender. Inflectional morphology is known to be particularly challenging for adult L2 learners in all the second languages tested and has been termed the "bottleneck" of the L2 acquisition process by Slabakova (2008). As a result, this area of the grammar has been subject to many experimental SLA and classroom intervention studies. Students who took the Introduction to SLA course will already be familiar with the Bottleneck Hypothesis. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	
第7回 Subjunctive Mood	
Why is the subjunctive mood so difficult to learn in second language acquisition? Not only does the subjunctive mood take substantial time for learners to acquire, but it is also a challenging phenomenon for linguists to describe and theorize. This is because the uses and meanings of the subjunctive depend on the interplay of syntactic, semantic, and discourse-pragmatic factors. As we will see, in some sentences, the subjunctive is obligatory and it is the only correct choice of verb form, whereas in other sentences the use of the subjunctive is optional, depending on the meaning the speaker wants to convey. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	
第8回 Argument Structure	
Have you ever wondered why the sentence <i>I painted the house red</i> sounds good but <i>I saw the house red</i> does not? Or why <i>The plane was delayed until noon</i> is fine but <i>The plane was arrived at noon</i> is ungrammatical? These differences have to do with the meaning of the verbs, which determines their syntactic behavior and morphological expression. It turns out that acquiring the syntactic behavior of different verbs presents nontrivial learnability challenges both for children acquiring their native language and for second language learners, as we will discuss in class. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	
第9回 Direct and Indirect Objects	
We discuss the position and meaning of the objects of the verb. Objects correspond to the arguments (obligatory elements) of verbs. As discussed, sentences with transitive verbs such as see, touch, and discover require an obligatory noun phrase that functions as a direct object (see a tree, touch a surface, discover a new species). Sentences with ditransitive verbs, such as give, send, and tell, require a direct object and an indirect object to complete their meaning (give something to somebody, send a message to a friend, tell a story to a child). Direct and indirect objects can be replaced by object pronouns (see them, tell him, give it to her), which are case-marked. Direct objects receive accusative case and indirect objects dative case, and this is more visible in languages that mark case overtly than it is in English. We will discuss the complex grammatical characteristics of constructions with indirect objects in English and with direct and indirect objects and object pronouns in Spanish. These constructions have been widely investigated in second language acquisition (SLA) because they pose serious learnability issues, especially at intermediate levels of development. We will see that the intervention studies in the lab and in the classroom that have been carried out to date show that explicit instruction and negative evidence are effective in promoting the acquisition of these phenomena. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	
第10回 Word Order and Related Syntactic Phenomena	
Whenever the learners' L1 and their L2 use different word order for a particular syntactic configuration, this presents a potential challenge to the learners, and may be subject to classroom instruction. We will discuss the implications of this intervention research. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]	

第1 1回	Where to Go Next	In the past few years there has been growing recognition that linguistics and SLA must do more to inform second language learning in the classroom (see, e.g., Whong, Gil, & Marsden, 2013), and that the two fields must relate to each other fruitfully. In this volume we have explored the relationship between linguistic theory, the SLA of different aspects of morphology, syntax, and semantics, and language teaching. We have examined existing intervention research motivated by linguistic and pedagogical research questions, including but not limited to studies of developmental sequences in the framework of Pienemann (1989) and studies on input processing instruction (VanPatten, 1996). In this closing chapter, we review what we have learned so far in this book. First, we summarize the main themes that have emerged from the studies in this volume. Subsequently, we offer some suggestions for where to go next. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
第1 2回	Umeda et al. (2019)	We leave the coursebook and look at an original paper that conducted intervention research. We look at the topic discussed in Week 4, articles. The paper by Umeda et al. (2019) is the paper we discuss. Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
第1 3回	Language Education (part 1): Purposes of Language Teaching	What is the purpose, value and role of language in education as outlined in education policy or syllabus guidelines you are familiar with? What is your own understanding of what language teaching is for? How does your own opinion differ from ideas outlined in education policy? i) How does the purpose differ for teaching of the national language and teaching of additional languages for you? Where is it the same? ii) Does the purpose differ if included at primary school level as opposed to middle or secondary school teaching? How about adult language teaching, for example, to recently arrived migrants? iii) Is purpose dependent on national context? Or type of school? Or does it depend on the socioeconomic status of the students in question? Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
第1 4回	Language Education (part 2): Language Acquisition and Learning	There are many things about language learning and language development that we still do not understand. List three questions about language development that you have. i) Now consider each question in terms of whether or not it could be used as a Research Question for empirical or theoretical study? Do so by thinking about how you could go about finding the answer to the question. Is it something that is 'research-able'? ii) Now consider each question you came up with in terms of teaching. What effect does each question have on classroom pedagogy? In other words, if you don't know the answer to the question you have posed, then what does this mean you might do (or not do) in your teaching? iii) Think about where your questions came from. Do they stem from your own experiences as a language teacher? Or perhaps your experience as a language learner? Do any of them find some clarification from ideas presented in this book? To what extent do the ideas in this book raise additional questions for you? Discussions will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
第1 1 5回	Presentation	Students have to present on an SLA topic they are particularly interested. In addition, there will be Q&A and each topic will be discussed in class. The discussion will be conducted among students and with the instructor. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
テキスト	Jonin, T. & Montrul, S. (2023). <i>Second Language Acquisition: Introducing Intervention Research</i> . Cambridge University Press. Grammar: A Linguist's Guide for Language Teachers. UK. Cambridge University Press. Chapter 5.	Rankin, T. & Whong, M. (2020).
テキスト購入方法	Students are able to purchase the course book online at https://www.amazon.co.jp	
参考文献	Students will be able to download copies of lecture slides as handouts from Google Classroom.	
成績評価の方法	Presentations 50%, term papers 50%	
教員への連絡方法	email: nealsnape@mail.gpwu.ac.jp	
履修上の注意	Students are required to purchase the course book.	
授業外学修情報 (予習復習)	Pre-study: Read the planned parts of the text and references carefully in advance. Post-learning: Review and deepen your understanding of what you have learned in class.	
学生へのメッセージ	Most of the classes given throughout the course are based on the course book Where the book does not cover a particular topic, handouts will be provided to students. We will also look at three papers related to intervention research.	

講義科目名称	応用言語学研究 IV	副題	Individual Differences in Second Language Acquisition
英文科目名称	Applied Linguistics Studies IV		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
神谷 信廣			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容(概要) 第二言語習得の個人差に関する様々なトピックを理解し、専門的な学習の基礎知識を身につける。授業形式は、反転授業の形式を取り、課題として教科書を読み、担当者がプレゼンテーションを行い、その内容について受講者同士で議論を深めたり、教員の講義を受けたり質疑応答をしたりして、双方向あるいは多方向に行われる授業を展開していく。(上記「授業種類」に記載されているように、この授業は「実務家教員」による授業である。)

授業の目的 第二言語習得の個人差に関する様々なトピックについて考察し、理解を深める。第二言語習得に対して、個人差が与える影響に関する研究課題を見つけ出す力を養う。

到達目標 第二言語習得の個人差に関する様々なトピックについて学がごとによって、個人差が第二言語習得に与える影響について説明することができるようになる。授業で取り上げる代表的な個人差の要素を、自分自身の英語学習やティーチングに活用できるようになる。

授業計画	第1回 Introduction どのような個人差がどのように、第二言語習得に影響を与えるかを学生相互で話し合う。その後、コース全体の概要と、それぞれの授業で扱う内容の概要を説明する。最後にプレゼンテーションの割り当てを決める。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回 Introduction: Individual differences 第二言語習得における個人差に関して、担当の学生がプレゼンテーションを行い、授業で扱う個人差が、第二言語習得にどのような影響を与えるかを学生相互で話し合う。また、第二言語習得における個人差の研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回 Personality 個人の性格が、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、MBTIという性格診断テストの簡易版を受け、その結果から、自分の性格が第二言語習得に与える影響について話し合う。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回 Language aptitude 言語適性が、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、言語適性の研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回 PLAB PLABと呼ばれる、言語適性を測定するテストを全員で受験する。その結果をシェアし、言語適性テストから分かる言語習得の得意な人の特徴、及び言語適性テストの限界点について話し合う。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回 Motivation 動機付けが、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の動機付け研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回 Learning styles and cognitive styles 学習スタイルと認知スタイルが、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の学習スタイルと認知スタイル研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回 Learning strategies and self-regulation 学習ストラテジーが、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の学習ストラテジー研究の歴史、成果、問題点などに加えて、より包括的な概念である自己調整について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回 Other learner characteristics 第二言語習得に影響を与える個人差として、創造性、不安、コミュニケーションに対する意欲、自尊心、信念について担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、これらの中で学生に興味があるものを選び、その研究成果や問題点について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回 Age and critical period hypothesis 第二言語の学習を開始した年齢が、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得における年齢の研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回 Genie アメリカで幼少期に言語に触れずに過ごしたジーニーという少女のドキュメンタリーフィルムを鑑賞する。その後、研究と子どもの養育を両立することの難しさ、研究倫理などについて討論する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回 The psychology of instructed second language acquisition 1 暗示的教授、明示的教授、暗示的知識、明示的知識が、様々な第二言語の教授法の中でどのように捉えられてきたかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、暗示的知識と明示的知識に関する研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回 The psychology of instructed second language acquisition 2 流暢性と自動化が、第二言語習得にどのような影響を与えるのかというテーマについて、担当の学生がプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、流暢性と自動化に関する研究の歴史、成果、問題点などを説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回 Final presentation 学生個人個人が、自分が一番興味を持った個人差に関するテーマに関してプレゼンテーションを行い、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、プレゼンテーションの方法と内容に関して、フィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回 Conclusions 本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかを話し合う。またこれからの個人差の研究の方向性と、最後の課題であるreflection

テキスト Dörnyei, Z., & Ryan, S. (2015). The psychology of the language learner revisited. New York, NY: Routledge.
Dörnyei, Z. (2009). The psychology of second language acquisition. Oxford, UK: Oxford University Press.

テキスト購入方法 各自購入。

参考文献 特になし。

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 1. Presentations: 15% 2. Reflections: 15% 3. Comments on reflections: 5% 4. Reading reports: 15% 5. Comments on reading reports: 5% 6. Final presentation: 15% 7. Reflection paper: 30%
教員への連絡方法	メールを使用する。文面は英語で書くこと。
履修上の注意	授業は英語のみを用いて行う。
授業外学修情報（予習復習）	<p>事前学習：次回の授業で学習する、教科書の指定された箇所を読む。プレゼンテーションを行う学生は、その準備を行う。</p> <p>事後学習：授業の振り返りを英語で書き、オンラインに投稿する。他の学生は、それに対するコメントを投稿する。また毎週のテーマに関連した研究論文を1本読み、その概要と批判を投稿する。他の学生は、それに対するコメントを投稿する。</p> <p>1回の授業に対して、合計約2時間の予習・復習を行うことが求められるので、1学期の授業外学修時間は合計30時間となる。</p>
学生へのメッセージ	毎時間の予習、復習が大切です。

講義科目名称	応用言語学研究 V	副題	Acquisition of English by Japanese Speakers
英文科目名称	Applied Linguistics V		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
梅田 真理			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員等による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目 <input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目 <input type="checkbox"/> 実務経験・授業での活用、招へいする実務家等 <input type="checkbox"/> 授業で使用する言語 <input type="checkbox"/> 日本語 <input checked="" type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> アクティブラーニング <input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている
授業の内容 (概要)	<p>学習者の母語は、第二言語の習得・発達に影響を与えると考えられている。本授業では、日本語を母語とする学習者による英語の習得に焦点を当てて考えていく。日本語と英語の特徴を比較し、学習者の母語である日本語の言語的特徴が英語の習得にどのように影響を与えるかについて、日本語を母語とする学習者の英語の習得を検証した研究を紹介する。そして、その影響が実験により実証されているかについて検証する。授業形式は、反転授業の形式を取り、課題として出されたリーディングの内容をまとめ、受講者同士で議論を行ったり、教員を含めた議論を行うなど、双方向あるいは多方向に行われる議論を通して内容を深く理解していく。さらに、受講者のこれまでの自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、英語習得における日本語の影響について議論を行なっていく。</p>
授業の目的	<p>第二言語習得と母語転移について基礎的な知識を身につける。また、自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、日本語の特徴がどのように英語習得に影響しているのか、認識し、説明する能力を養う。あわせて、これまでの理論的な考え方について考察し、課題を見つけ出す力を養う。国際コミュニケーション研究科の定めるDP1とDP3の達成に関与している。</p>
到達目標	<p>第二言語習得と母語転移について基礎的な知識が身につけている。また、日本語の特徴がどのように英語習得に影響するのか、認識し、説明することができる。さらに、受講者相互の議論や教員も含めた議論を通して、これまでの理論的な考え方について考察をし、課題を見つけ出す力をつける。</p>
授業計画	<p>第1回 イントロダクション クラス運営、課題、テキスト等について説明する。</p> <p>第2回 第二言語習得研究—理論と実証 (1) 第二言語習得研究のこれまでの歴史と理論的な変遷について、振り返る。</p> <p>第3回 第二言語習得研究—理論と実証 (2) 第二言語習得における母語の影響 (母語転移) について考える。特に、「対照分析仮説」と「部分転移仮説」「完全転移仮説」に焦点を当てる。そして、自分の英語学習あるいは教育現場での経験も振り返りながら、母語の影響としてどのような例が挙げられるか、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第4回 音声・音韻の習得 (1) 英語と日本語の音声・音韻の違いについて学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響が出るかが予測されるか考え、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第5回 音声・音韻の習得 (2) 英語の音声・音韻の習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Sheldon & Strange, 1982; Brown, 1998, 2000; Ohta, 2004, など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第6回 形態素の習得 (1) 英語と日本語の形態素 (名詞句の区別や形態素) の違いについて学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響が出るかが予測されるか考え、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第7回 形態素の習得 (2) 英語の形態素の習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Inagaki, 2014; Umeda, 2016; Wakabayashi, 1997; Yusa et al., 2014, など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第8回 音声・語彙の習得：発表 ここまで学んだ内容に関してまとめ、さらにどのような課題があるかを考える。それぞれの発表内容と研究課題について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第9回 文の習得 (1) 英語と日本語の文法の違い (疑問文、非対格動詞など) について学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響が出るかが予測されるか考え、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第10回 文の習得 (2) 英語の文法の習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Hirakawa, 1995; Oshita, 2000; Hawkins & Hattori, 2006; Umeda, 2005, 2006, など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第11回 意味の習得 (1) 英語と日本語の意味 (解釈) の違い (代名詞・再帰代名詞・時制・アスペクトなど) について学ぶ。それぞれの言語の特徴について、まずは学生相互で議論し、その後教員を含めて議論をする。そして、違いによりどのような影響が出るかが予測されるか考え、議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第12回 意味の習得 (2) 英語の代名詞・再帰代名詞の習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Hirakawa, 1990; Akiyama, 2000; 吉村・中山, 2014; など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第13回 意味の習得 (3) 英語の時制・アスペクトの習得に関する日本語母語話者を対象とした実験について学ぶ (Gabriele & Martoharjono, 2005; Gabriele, 2009; など)。実験の手法や結果について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第14回 文法・意味の習得：発表 ここまで学んだ内容に関してまとめ、さらにどのような課題があるかを考える。それぞれの発表内容と研究課題について学生同士で議論し、その後教員を含めて議論する。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p> <p>第15回 まとめ 授業で学んだことをまとめ、その内容について、受講者同士や教員を含めて授業で議論していく。(双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)</p>
テキスト	なし

テキスト購入方法	なし
参考文献	授業中に指示する。
成績評価の方法	発表50%、レポート50%
教員への連絡方法	Eメール、Google Classroom、ポータルの何れかを使い、メッセージを送ってください。
履修上の注意	授業中に指示する。
授業外学修情報（予習復習）	1学期の授業外学修時間 合計30時間(授業予習・復習, 課題の解答, レポート/発表の準備・執筆)
学生へのメッセージ	授業中に積極的に議論に参加できるように、これまでの自分の英語学習や教員として観察したことなどを授業の前にしっかり考え、授業中にシェアできるようにしておいてください。

講義科目名称	応用言語学研究VI	副題	Reflective Teaching Practices
英文科目名称	Applied Linguistics Studies VI		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
神谷 信廣			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目
	<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
<input type="checkbox"/> 日本語	
<input checked="" type="checkbox"/> 英語	
<input type="checkbox"/> その他	
アクティブラーニング	
<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている	

授業の内容 (概要) 教室内の第二言語習得に関する様々なトピックを学び、それらを自分の授業で実践したものを録画し、授業内でお互いに見合い、その内容に関して話し合う。それらを通して、教室内の第二言語習得に関する様々なトピックを理解し、専門的な学習の基礎知識を身につける。授業形式は、課題として授業実践を行い、その内容について受講者同士で議論を深めたり、教員の講義を受けたり質疑応答をしたりして、双方向あるいは多方向に行われる授業を展開していく。(上記「授業種類」に記載されているように、この授業は「実務家教員」による教室内の第二言語習得に関する様々なトピックについて考察し、その実践を行い、さらに振り返りを行うことにより理解を深める。

授業の目的 教室内の第二言語習得に関する様々なトピックについて学ぶことによって、今後の自分自身の英語学習やティーチングに活用できるようになる。

到達目標 教室内の第二言語習得に関する様々なトピックについて学ぶことによって、今後の自分自身の英語学習やティーチングに活用できるようになる。

授業計画	第1回 Introduction	現在自分が課題としている、教室内における第二言語習得に関するトピックにはどのようなものがあるかを学生相互で話し合う。その後、コース全体の概要と、それぞれの授業で扱う内容の概要を説明する。最後にプレゼンテーションの割り当てを決める。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第2回 Listening	担当の学生が、自分が撮影したリスニング活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的なリスニング指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第3回 Reading	担当の学生が、自分が撮影したリーディング活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的なリーディング指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第4回 Speaking (Speech)	担当の学生が、自分が撮影したスピーキング (発表)活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的なスピーキング (発表)指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第5回 Speaking (Interaction)	担当の学生が、自分が撮影したスピーキング (やり取り)活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的なスピーキング (やり取り)指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第6回 Writing	担当の学生が、自分が撮影したライティング活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的なライティング指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第7回 Grammar	担当の学生が、自分が撮影した文法を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な文法指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第8回 Vocabulary	担当の学生が、自分が撮影した単語を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な単語指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第9回 Pronunciation	担当の学生が、自分が撮影した発音を教える活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な発音指導について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第10回 Teacher talk	担当の学生が、自分が撮影したティーチャー・トークのビデオをシェアして、その意図を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的なティーチャー・トークについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第11回 Oral corrective feedback	担当の学生が、自分が撮影した口頭の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な口頭の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第12回 Written corrective feedback	担当の学生が、自分が撮影した筆記の間違いに対する訂正フィードバックを行う活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な筆記の間違いに対する訂正フィードバックについて説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第13回 Implicit knowledge, explicit knowledge, & automatization	担当の学生が、自分が撮影した暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動を実践したビデオをシェアして、その活動の目的や目標を説明し、他の学生とのディスカッションをリードする。その後、第二言語習得の研究から考えられる効果的な暗示的知識と明示的知識の定着や自動化を目指した活動について説明する。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第14回 Preparation for demonstration lesson	学んできたことを実践する最後の研究授業の授業案を持ち寄り、内容について討議をして、お互いにフィードバックを与える。(実務家教員による授業、双方向または多方向に行われる討論を伴う授業)
	第15回 Demonstration lesson & Conclusions	研究授業を実践し、授業を参観する。その後討議を行い、研究授業並びに本授業で学んだことを振り返り、今後の自分自身の英語学習やティーチングにどのように生かしていくのかを話し合う。

テキスト 特になし。

テキスト購入方法 特になし。

参考文献 特になし。

成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> 1. Presentations: 20% 2. Reflections: 20% 3. Comments on reflections: 5% 4. Analyses of classroom practices: 20% 5. Comments on analyses: 5% 6. Reflection paper: 30%
教員への連絡方法	メールを使用する。文面は英語で書くこと。
履修上の注意	授業は英語のみを用いて行う。
授業外学修情報（予習復習）	<p>事前学習：次回の学習事項を授業で実践してそのシーンを録画する。次回の発表者以外は、そのビデオを説明と共に他の学生とシェアして、他の学生は、それに対するコメントをオンラインに投稿する。</p> <p>事後学習：授業の振り返りを英語で書き投稿する。他の学生は、それに対するコメントを投稿する。</p> <p>1回の授業に対して、合計約2時間の予習・復習を行うことが求められるので、1学期の授業外学修時間は合計30時間となる。</p>
学生へのメッセージ	毎時間の予習、復習が大切です。

講義科目名称	English Communication I	副題	Brushing Up English Communication Skills I
英文科目名称	English Communication I		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
スネイプ ニール / 未定			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input type="checkbox"/> 日本語
	<input checked="" type="checkbox"/> 英語
	<input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要) The class format is a flipped classroom format, in which students deeply understand the new learning content they have prepared at home through interactive or multidirectional discussions, such as discussions among students and discussions with teachers, while using assignment sheets. Students learn through conducting group discussions in class. [Classes with interactive or multi-directional discussions]

授業の目的 The purpose of this course is to discuss different topics in English. In addition, students will practice other skills such as listening, reading and writing.

到達目標 By brushing up English skills, students will be better prepared for the graduate school courses in English. In addition, through discussions among students and with faculty members, students will be able to practice their speaking and listening skills.

授業計画	第1回 Introduction The first week of the course will be Icebreakers and an overview of the course and the textbook.
	第2回 Live and Learn! Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, transitions and visualizing location Speaking: Asking for clarification, Using expressions of location, Describing map locations, Discussing personal views Critical Thinking: Analyzing and interpreting an image, Using a lecture introduction to predict content, Taking notes on a lecture: indentation, keywords, abbreviations, and symbols, Using a Venn diagram Language Focus: Using stress, Using reductions, Expressing location, Asking for clarification, Using <i>should</i> and <i>shouldn't</i> Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第3回 Bright Lights, Big City Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, clues to relationships between people and visualizing directions Speaking: Expressing feelings, Starting and ending a phone conversation, Expressing frustration, Requesting and giving directions, Conducting research and giving a presentation Critical Thinking: Predicting questions speakers will ask, Taking notes on numbers and statistics, Using transitions as cues for note-taking Language Focus: Using stress, Using reductions, Using vocabulary, Expressing frustration, Starting and ending phone conversations, Requesting and giving directions Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第4回 Money... Talks! Listening: Listening for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, for numbers, expressions of advice Speaking: Suggesting and recommending, Discussing managing money, entrepreneurs, and abilities, Asking for, giving, and refusing advice, Conducting research and giving a presentation Critical Thinking: Taking notes on a lecture, Outlining a lecture, Taking notes on a process Language Focus: Using stress, Using <i>can</i> versus <i>can't</i> , Using <i>teens</i> versus <i>tens</i> , Suggesting and recommending Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第5回 Nail That Job! Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, for a sequence of events, for specific information Speaking: Discussing jobs and careers, Apologizing and reconciling, Role-playing a job interview, Giving a short oral report, Conducting research and providing documentation Critical Thinking: Taking notes on cause and effect, Interpreting information in a table, Taking notes on statistics, Outlining a lecture, Speculating about hypothetical situations, Using a matrix diagram, Discussing the changing roles of women Language Focus: Using stress, Using reductions, Using sequencing, Agreeing and disagreeing Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第6回 The Way We Live Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, for stress in two- and three-word verbs Speaking: Asking for help and favors, Discussing numbers and percentages, Comparing lifestyles in different countries, Conducting research and giving a presentation Critical Thinking: Interpreting a line graph, Taking notes on a lecture Language Focus: Using stress on phrasal verbs, Using reductions, numbers and percentages, Asking for help or a favor Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第7回 World Village Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, transitions and taking notes Speaking: Identifying the pros and cons, Using verbal and nonverbal language, Surveying and interviewing, Speaking from an outline, Conducting research and giving a presentation Critical Thinking: Taking notes on similarities and differences, Comparing verbal and nonverbal language, Estimating the impact of tourism, Outlining a lecture Language Focus: Using intonation in questions and requests, Expressing the pros and cons Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第8回 A Universal Language? Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, ransitions, lecture subtopics and checking Speaking: Giving praise and encouragement, Speaking from an outline, Expressing tentative opinions, Conducting research and giving a presentation Critical Thinking: Discussing body language and communication worldwide, Outlining a lecture, Using spelling quizzes, word games, and puzzles Language Focus: Using stress, reductions, statements with rising intonation, Giving encouragement and praise, Guessing: being tentative Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第9回 Each to Their Own Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, taking notes and to a podcast interview Speaking: Expressing and reporting on likes and dislikes, Conducting research and giving a presentation, Giving an impromptu speech Critical Thinking: Planning a tour, Outlining the interview, Discussing options and reaching agreements Language Focus: Using stress, reductions, Expressing likes and dislikes, preferences Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]
	第10回 Pushing Boundaries Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, for expressions of surprise, for persuasive language Speaking: Signposting, from an outline, Giving a persuasive speech, Conducting research and giving a presentation Critical Thinking: Taking notes on specific information, Discussing applications of artificial intelligence and personal discoveries and achievements Language Focus: Using negative prefixes, Pronouncing <i>-ed</i> endings, Expressing interest or surprise, Using conditional sentences <i>-if</i> and <i>unless</i> Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]

	<p>第11回 Milestones and Occasions Listening: for main ideas and details, stressed words, reductions, and transitions, Digressing and returning to the topic Speaking: Speaking from an outline, Conducting research and giving a presentation about a celebration Critical Thinking: Taking notes on wedding preferences, Outlining a lecture, Comparing different cultural celebrations Language Focus: Using stress in compound phrases, Offering congratulations and sympathy, Comparing and contrasting <u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第12回 Further topics (1) TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet. <u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第13回 Further topics (2) TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet. <u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第14回 Further topics (3) TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet. <u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第15回 Review Students have to summarize what they did in class and what they are particularly interested in in a report and present it. In addition, the content will be discussed in class. <u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
テキスト	<i>New Interactions Listening and Speaking 3</i> , McGraw Hill.
テキスト購入方法	Students are able to purchase the course book online at https://www.amazon.co.jp
参考文献	Students will be able to access any assignments through Google Classroom.
成績評価の方法	Homework assignments 100%
教員への連絡方法	email: nealsnape@mail.gpwu.ac.jp
履修上の注意	Students are required to purchase the course book.
授業外学修情報（予習復習）	Pre-study: Read the planned parts of the text and references carefully in advance. Post-learning: Review and deepen your understanding of what you have learned in class.
学生へのメッセージ	Most of the classes given throughout the course are based on the course book. Where the book does not cover a particular topic, handouts will be provided to students.

講義科目名称	English Communication II	副題	Brushing Up English Communication Skills II
英文科目名称	English Communication II		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1・2	2単位	必修選択
担当教員			
スネイプ ニール / 未定			

英語コミュニケーション	講義
添付ファイル	

授業種類	実務経験のある教員等による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務経験のある教員による授業科目
	<input type="checkbox"/> 実務家を招へいして実施する授業科目
	実務経験・授業での活用、招へいする実務家等
	授業で使用する言語
	<input type="checkbox"/> 日本語
	<input checked="" type="checkbox"/> 英語
	<input type="checkbox"/> その他
	アクティブラーニング
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブラーニング要素を取り入れている

授業の内容 (概要)

The class format is a flipped classroom format, in which students deeply understand the new learning content they have prepared at home through interactive or multidirectional discussions, such as discussions among students and discussions with teachers, while using assignment sheets. Furthermore, by applying the concept to a wider range of language data while conducting group discussions, we will deepen our understanding of English topics. Students learn through conducting group discussions in class. Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]

授業の目的

The purpose of this course is to discuss different topics in English. In addition, students will practice other skills such as listening, reading and writing.

到達目標

By brushing up English skills, students will be better prepared for the graduate school courses in English. In addition, through discussions among students and with faculty members, students will be able to practice their speaking and listening skills.

授業計画	第1回 Introduction
	The first week of the course will be Icebreakers and an overview of the course and the textbook.
	第2回 Rise to the Challenge!
	Listening: for stressed words, Comparing reduced and unreduced pronunciation, making predictions, Pragmatic understanding of a presentation, Recognizing tone of voice Speaking: Sharing perspectives on academic lecture styles, Using appropriate expressions to request and offer clarification, Discussing learning styles, Solving riddles and brainteasers, Giving a presentation on learning styles Critical Thinking: Using graphic organizers to brainstorm and predict presentation content, Predicting what a presenter will say next, Analyzing academic instruction, Discussing learning styles, Solving riddles and brainteasers Language Focus: Stressed words, Reductions, Requesting and offering clarification <u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u>
	第3回 Compete or Cooperate?
	Listening: for appropriate use of intonation in expressions used to ask for confirmation of understanding, stressed words, Outlining main ideas and supporting details in a lecture, Pragmatic understanding of a lecture Speaking: Challenging excuses with expressions used to ask for confirmation of understanding, Sharing observations on cooperation and competition, Identifying figurative language and creating metaphors, Asking for confirmation of understanding, Giving a presentation on an endangered species Critical Thinking: Using graphic organizers to brainstorm and predict lecture content, Constructing an outline of main ideas and supporting details, Classifying animals in a food pyramid, Discussing the pros and cons of exploration Language Focus: Asking for confirmation of understanding, Stressed words, Asking for confirmation to challenge excuses, Analogies, metaphors, similes, and personification <u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u>
	第4回 The Ties That Bind
	Listening: for stressed words, Comparing reduced and unreduced pronunciation of <i>h</i> , Listening for data and details refuting straw man arguments, Pragmatic understanding of a lecture, Reviewing an article about healthy family communication Speaking: Sharing perspectives on sibling and family relationships, Paraphrasing and making generalizations, Comparing family relationships in different cultures, Discussing the hallmarks of healthy family communication, Giving a presentation on good parenting skills Critical Thinking: Using a graphic organizer to compare assumptions, Predicting straw man arguments, Constructing arguments to refute assumptions using expressions of contrast, Expanding on healthy family communication Language Focus: Stressed words, Reductions: reduced <i>h</i> , Expressing contrast, Generalizing <u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u>
第5回 Healthy Mind, Healthy Body	
Listening: for main ideas, expressions used to make analogies, Identifying intonation patterns in questions and requests, Outlining a presentation and answering comprehension questions, Identifying context clues, Taking notes on ailments, remedies, and effects Speaking: Sharing prior knowledge about the heart, Discussing flu epidemics, Reviewing symptoms and using expressions of opinion to reach a diagnosis and give medical advice, Discussing home remedies and debating their effectiveness, Giving a presentation an alternative or complementary form of medicine/ therapy Critical Thinking: Using a graphic organizer to record analogies, Using a graphic organizer to build background knowledge, Reviewing symptoms to diagnose an ailment, Discussing the qualities of medical professionals, Debating the effectiveness of home remedies Language Focus: Analogies, Intonation in questions and requests, Expressing opinions <u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u>	
第6回 Hi-Tech, Low-Tech, or No Tech?	
Listening: for phrasal verbs, stressed words, Taking notes on a field trip, Recalling and listening for numbers, Contrasting active and passive voice Speaking: Sharing perspectives on astrology and horoscopes, Sharing prior knowledge and views of space exploration, Debating the pros and cons of the privatization of space travel, Presenting a news report using the passive voice, Giving a presentation on a topic related to astronomy Critical Thinking: Researching to build background knowledge, Labeling diagrams, Selecting relevant notes to give a summary, Using transitions to express reason, purpose, and result, Analyzing the pros and cons of the privatization of space travel Language Focus: Stress on phrasal verbs, Stressed words, Pronouncing numbers, Expressing reason, purpose, and result, Distinguishing between active and passive voice <u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u>	
第7回 Dollars, Deeds, and Dreams	
Listening: Identifying appropriate expressions of agreement and disagreement, taking notes on pro and con arguments and Making inferences Speaking: Using expressions to disagree politely, Sharing prior knowledge about the World Bank, Agreeing and disagreeing with views about the World Bank, Brainstorming and presenting ways to invest money, Examining a case study to present development projects, Presenting a proposal for a development project requiring financial aid Critical Thinking: Evaluating the pros and cons of a development project, Formulating challenging questions, Analyzing the pros and cons of World Bank practices, Using a Venn diagram to compare banking schemes, Reaching a consensus on the best way to invest money, Analyzing data to propose development projects Language Focus: Agreeing and disagreeing <u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u>	
第8回 Standing Out From the Crowd	
Listening: for modifiers of comparatives and superlatives, stressed words, time expressions, Completing a timeline with chronological events, appropriate expressions and tone of voice to show likes and dislikes Speaking: Sharing views on people who have done remarkable feats, Presenting a biography using expressions of time, Sharing perspectives on cycling, Sharing views on why doping should be prohibited in sport, Collaborating to create and present a sports code of ethics, Discussing interests, Conducting a survey on people's opinions about remarkable people and presenting the findings Critical Thinking: Using a Venn diagram to compare remarkable feats, Putting events in chronological order, Labeling a diagram, Using expressions of reason, purpose, and result, Choosing appropriate ways to express likes and dislikes, pleasure and displeasure Language Focus: Modifying comparatives and superlatives, Stressed words, Expressing time and sequence, Expressions of <i>like</i> and <i>dislike</i> <u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u>	

	<p>第9回 Imagine, Create, Succeed</p> <p>Listening: for signal words and information, Making inferences, Recognizing and taking notes on divulged information, Identifying main ideas in a lecture, Taking notes on signal words</p> <p>Speaking: Sharing perspectives about art and creativity, Speculating on creative drive in the workplace, Interpreting and discussing modern art, Sharing ideas about motivation at work, school, and play, Brainstorming and presenting ways to become more creative, Giving a presentation on different types of corporate culture</p> <p>Critical Thinking: Using a Venn diagram to compare artists, Speculating on factors that influence creativity at work, Using creativity to solve puzzles, Analyzing images to speculate on corporate culture, Matching descriptions of art styles to images</p> <p>Language Focus: Recognizing when information is being divulged</p> <p><u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第10回 Social Behavior</p> <p>Listening: Identifying types of tag questions, stressed words, expressions introducing digressions and returns to the main topic, Recognizing digressions and their purpose in a lecture, Identifying and categorizing tag questions in a lecture, specific information in a lecture, Taking notes on an article about leadership</p> <p>Speaking: Sharing experiences about social groups, Reporting on digressions in a lecture, Sharing perspectives on group dynamics, Using tag questions in role-plays, Brainstorming and discussing leadership qualities, skills, and styles, Designing a questionnaire about the qualities of a successful leader and presenting the results</p> <p>Critical Thinking: Speculating about social behavior, Distinguishing between main points and digressions, Identifying and analyzing reasons for digressions, Analyzing group dynamics, Evaluating leadership skills and styles</p> <p>Language Focus: Tag questions, Stressed words, Grammar forms of tag questions</p> <p><u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第11回 It's a Crime!</p> <p>Listening: Identifying hopes and wishes, stressed words, Comparing reduced and unreduced pronunciation, Paraphrasing key points in a lecture, Making inferences, Paraphrasing wishes and hopes, Taking notes and answering idea-connection questions</p> <p>Speaking: Making wishes and expressing hopes and dreams, Reviewing cases and discussing if punishments fit their crimes, Sharing points of view on the issue of legal insanity, Discussing cases and reasons for guilt and innocence, Acting out a mock trial, Giving a presentation on cybercrime and its prevention</p> <p>Critical Thinking: Interpreting quotes about hopes and wishes, Speculating about free will and predetermination, Paraphrasing ideas of a lecture, Determining whether punishments fit their crimes, Debating details of a case to reach a verdict</p> <p>Language Focus: Expressing hopes, wishes, and desires, Stressed words, Reductions</p> <p><u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第12回 Further topics (1)</p> <p>TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet.</p> <p><u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第13回 Further topics (2)</p> <p>TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet.</p> <p><u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第14回 Further topics (3)</p> <p>TBA in class with students choosing a topic that they wish to include. Authentic materials will be used from the internet.</p> <p><u>Discussions are conducted among students and with instructors. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
	<p>第15回 Review</p> <p>Students have to summarize what they did in class and what they are particularly interested in in a report and present it. In addition, the content will be discussed in class.</p> <p><u>Discussions are conducted among students and with teachers. [Classes with interactive or multi-directional discussions]</u></p>
テキスト	<i>New Interactions Listening and Speaking 4</i> , McGraw Hill.
テキスト購入方法	Students are able to purchase the course book online at https://www.amazon.co.jp
参考文献	Students will be able to access any assignments through Google Classroom.
成績評価の方法	Homework assignments 100%
教員への連絡方法	email: nealsnape@mail.gpwu.ac.jp
履修上の注意	Students are required to purchase the course book.
授業外学修情報（予習復習）	Pre-study: Read the planned parts of the text and references carefully in advance. Post-learning: Review and deepen your understanding of what you have learned in class.
学生へのメッセージ	Most of the classes given throughout the course are based on the course book. Where the book does not cover a particular topic, handouts will be provided to students.